

# 共立女子大学文芸学部報

共立女子大学文芸学部報  
第129号  
発行日 2018年7月24日  
編集・発行 共立女子大学  
文芸学部  
〒101-8347  
東京都千代田区  
一ツ橋2-2-1  
発行責任者 山本聡美  
創刊 1968年12月  
題字 遠藤慎吾  
第二代文芸学部長

学部報に関するご意見・ご感想を以下のメールアドレスまでお寄せください。  
gakubuh@kyoritsu-wu.ac.jp

学部報は共立女子大学公式HPの「文芸学部」のコーナーでもお読みいただけます。  
http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/

第129号 主目次

第1面	トップエッセイ 美の旅 大学随想
第2面	特集 「夏休み今昔物語」 卒業生コラム
第3面	研究ノート 心象点描
第4面	各セクションから

(今号の一言)  
「この愛の世界を生きることこそ、私たち人間にとって、生きることの『すべて』なのである」  
(武藤剛史)

### 大学随想

一月に大学の仕事で静岡の予備校を訪ねた際、そのビルの屋上看板に校名とともに「河合塾提携」と書いてあるのを見て、懐かしさを禁じえません。河合塾は私から人時代を過ごした、いわば母校だからです。しかし私が学んだ校舎は少子化のためか、ずいぶん前に閉校し、今はもうありません。浪人中、予備校へは京王井の頭線の池ノ上駅から歩いて通っていましたが、その途中に「レインボウ」というパン屋がありました。素朴な構えをした町のパン屋さんといえ、その名の通り品揃えはバラエティに富み、予備校への道すがらよくここでパンを買い、小腹を満たしたものです。しかし今思い返すと、経営面では色々な苦勞を抱えていたようです。そのパン屋は、フランス・ポーラス産小麦を使ったクロワッサンが有名で、その芸術的な造型とあいまって看板メニューの一つでした。それがある時から急に一回り小さくなりました。風の噂では、お客が味に飽きる前に先手を打って小麦粉の仕入れ先を変えようとしたところ、契約交渉がこじれ、本場の上質な小麦粉が手に入らなくなりました。また、店で「二を争う売れ行きの雑穀パンがなくなる」という話もありました。ほかのパンの売り上げを伸ばしたい店主が、いっそ人氣商品の雑穀パンをやめてしまえば、それを目当てに来店した人は他のパンを買ってくれるはずと考えたようです。雑穀パンは私も好きだったので、この話の行く末が気になりました。この話の行く末が大学進学を機に東京を離れることになり、その後のことは分からずじまいになってしまいました。レインボウがもし今も健在ならまた訪れてみたいものです。  
(國分建志・教授・文芸教養)

## 大切なことは目に見えない

武藤剛史

「大切なことは目に見えない」  
(Ce qui est important, ça ne se voit pas.)

誰もが知っている通り、サン＝テグジュペリの『星の王子さま』に何度も出てくる有名な言葉である。だが、この言葉はいったい何を言わんとしているのだろうか。

たとえば、これは、何であれ、人間にとって大切なこと、肝心なことは、そう簡単に目に見えるものではない、という一般論を言っているのだ、という考えもあるだろう。しかし、物語の文脈に即して考えるなら、もう少し具体的なイメージが浮かんでくる。

★ ☆ ★  
この言葉を最初に言うのは、キツネである。だが、そのまえにキツネは、真の人間関係を築き上げるためには、互いに「飼いなす」こと、つまりは「絆を結ぶ」ことが必要で、それによつてはじめて、互いが互いに「世界でたったひとりのひと」になるのだと言う。さらにキツネは言う。

「きみのバラをかけたがえのないものにしたのは、きみがバラのために費やした時間だったんだ。」  
このように、「絆を結ぶ」には、相手に自分の時間を、つまりは自分自身を、与えねばならない。そのうえで、キツネは次のように言う。  
「きみは、飼いなすしたもの、絆を結んだものには、永遠に責任を背負うのだ。キツネは次のように言う。以上を踏まえてのことである。それならば、作者の言う「大切なこと」とは「飼いなす」こと、「絆を結ぶ」こと、さらには「絆を結んだものには、永遠に責任を背負う」ということなのだろうか。もちろん、そう考えてもよいだろうが、それだけのことであるなら、作者は単にひとつの倫理、誠実さや責任感、そして自己犠牲の精神を説いているにすぎないということになるだろう。しかし、作者の言う「大切なこと」は、そうした倫理を超えたところにあると私は思う。



ジラフピアノ (浜松市楽器博物館所蔵)

## 美の旅

土田牧子

グランドピアノを縦にしたような形。  
十九世紀にウィーンで流行したという。人々は、この種のピアノをキリンに見立てて「ジラフピアノ」と呼んだ。

写真の例は、鍵盤が多めで横幅が広く、弦の部分が板で覆われていないので、キリンっぽさはイマイチ！でも、華やかな音色は、ハープ風の装飾のイメージのもの。

(准教授・劇芸術)



シャルトル大聖堂 (筆者撮影)

「星はきれいだな。それは目に見えない花のせいなんだ……」。「砂漠が美しいのは、どこかに井戸を隠しているからだ……」。

だが、ここでも注意しなければならぬのは、そうして変貌した世界とは、じつは私たちが本来そこに住んでいる世界、私たちの真の故郷としての世界なのだとこのことである。私たちは、誰かをほんとうに愛することに、つまり自分自身を与え尽くすことによって、その世界に戻ることができ

「子供時代、誰もがそこから出てきた広大な領域！私はどこに属するか？私は子供時代に属する。ひとがひとつの国に属するよう、私は子供時代に属する。」  
「私は思いつく。子供時代の遊びのことを……。私たちはひとつの閉ざされた文明を形づくっていた。そこでは一歩一歩が味わいを保持していたし、ひとつひとつの事物が、他のどこにも許されない意味を持っていた。」

このように、私たちが子供の頃そこに住んでいた世界こそ真実の世界であり、私たちはその世界に住むことによって、はじめてほんとうに生きることができると。つまり、私たちが人間として、ほんとうの命、ほんとうの存在、ほんとうの意味、ほんとうの目的を見出し、それを生きることができるとは、この世界においてのみである、というのがサン＝テグジュペリの深い確信である。

★ ☆ ★  
しかし、この世界は、何よりも

「大切なこと」が、この愛の世界を生きることである。世界を生きることである。現代の世界は、そして私たち現代人は、その「大切なこと」から、どれほど遠く離れてしまっているのだろうか。

それはつまり、私たちがすっかり大人になってしまえば、それゆえに現代の世界が完全に大人の世界になってしまったからである。大人になるとは、自立した主体となることである。人間の自立、つまり人間中心主義は、近代および現代の支配的イデオロギーである。それは今なお、啓蒙、文明開化、進歩、人間の勝利と謳われている。

だが、サン＝テグジュペリからすれば、それはむしろ野蠻への後退であり、ひとつの文明の崩壊をもたらしたのだ。彼は、人間を大聖堂を支えるひとつひとつの石に喩える。石はあくまで大聖堂に属することで意味と存在理由を付与されているのだが、その石が好き勝手に自己主張することによって、大聖堂は分裂・解体してしまつた。当然ながら、大聖堂が崩れることによって、石はすべての存在理由を失ってしまう。このように、近代人は、個を主張することによって、人間が住むべき世界を、そして「住まう」存在としての人間を、すっかり見失ってしまったのだ。

サン＝テグジュペリが死の直前まで書き続けた未完の大作『城壁』は、まさに文明再建と人間再生の壮大なる試みであった。

サン＝テグジュペリの言う「大切なこと」は、まさに文明再建と人間再生の壮大なる試みであった。



# 特集 夏休み今昔物語

昔に比べ期間が短くなったとはいえ、やはり大学の夏休みは、その自由さにおいて格別であることに変わりありません。そして自由であるがゆえに、どのように過ごしてよいか、決めかねることもなりがち。

中には、夏休みを経た後、ガラッと変身してしまう学生もいます、良くも悪くも、意図的であれ無自覚であれ…。それほどに、夏休みという時間は大きな意味を持つことがあります。

まもなく夏休み。今年はどうのように過ごしますか？ 参考のために、はるか昔の大学生、ちょっと昔の大学生、そしてまだ大学生の方々に、それぞれの体験を語ってもらいました。

## 《大昔》 自分の世界を広げる時間

沼田知加

夏休み—なんと甘美な言葉だろう。お正月休みや春休み、GWや普通の祝日だって、お休みには違いない。しかし、近頃の大学では祝日に授業をすることもある。四月末から五月にかけての連休も縮小傾向で、もはやゴールデンと

は言い難い。やはり、大学生にとって「夏休み」は特別なものではないだろうか。私が大学生だった頃の話しよう。七月になるとそろそろ授業が終わり、九月の最終週まで、二ヶ月以上も夏休みが続いた。夢のようだと思うだろうか。いや、実は九月が曲者で、前期末試験が夏休み明けにあったのだ。

一年生の時に受講していた英語学の授業では、夏休み明けの試験で、聖句の出典を問う問題が出るかと予告されていた。キリスト教の

素養がまったくない私は、絶望的な気分になった。時間がたつぷりある夏休みに一念発起し、キング・ジェームズ版聖書を読んだ。試験結果は惨憺たるものだった。もっと効率の良い方法があったかもしれないが、大学一年生の夏休みの記憶は、欽定訳聖書と共にある。

二年生の夏休みは、もっと楽しい思い出だ。アメリカ文学の授業で、夏休み直前になぜか三島由紀夫とガルスシアールマルケスの小説の抜粋を英語翻訳で読んだ。夏休みに『百年の孤独』の日本語翻訳を

読破し、他の中南米作家たちの小説を読みあさった。時間がたつぷりある夏休みでなかったならば、手を伸ばさなかったかもしれない。大学二年生の夏休みは、中南米作家たちの小説と奇妙なほどシンクロしていた。

三年生の夏休みも四年生の夏休みも同じように、普段は読まないような書物を読んで過ごした。時間がたつぷりあるというのには、なぐに申し込んだ。場所は釧路の近くの白糠という小さな町だった。夜行列車に乗り、現地に辿り付いたのは二日後の早朝。到着早々、振り分けられたのは、二十代後半の夫婦と小さい男の子一人の家庭だった。

翌朝早くからルーティンの仕事に入る。まずは牛舎掃除をしてエサを配給。それから牛のおっぱいをきれいに拭き、ミルクと呼ばれる搾乳機を装着。搾り終えたら、牧草地まで誘導して、放牧。

午後、冬に向けて牧草の刈取りと積み上げの作業。夕方になると、牛たちを牛舎に呼び戻し、エサやりをして終了。

これを30日間、雨が降っても毎日ひたすら繰り返した。それなりの休憩時間はあったのに、本は一冊も読もうと思わなかった。新聞やテレビもあったが、記憶がない。何も考えることなく、ただひたすら肉体的労働に徹した。

とくに事件らしい事件もなかったが、それで、つまらないとか退屈とか、一度も思わなかった。牛たちのために、日々しなければならぬことがある、それだけで一杯だった。やがて最初はつれなかつた？牛たちの表情や癖も分かるようになっていった。

最終日の前夜。いつものように「ペーペー」と声を掛けながら牛を追い込んでいたら、なぜか一頭が群れを離れてしまった。追えば逃げるの繰り返し。最後はトラックで連れ戻してもらい、一件落着。それがフィナーレとなった。

その後、訪ねる機会もないまま、半世紀近く経った。当の酪農家は廃業してしまつたから、もはやあの場所には何の面影も残っていないだろう。それでも、僕の中ではその夏休みの30日間だけが、人生の特別な「コマ」として、今もくつきりと浮かんでくる。

「援農、ユーノー？ 半沢幹一」

大学二年の前期も終わり頃のこと。夏休みをどう過ごすかばんやり考えながら、談話室でうだうだしていたら、ふと「援農」と書かれたポスターが目が止まった。

「援農」って何だ？ よく読んでみると、夏一ヶ月間の、北海道の酪農家でのアルバイトだった。これだ！ 若さというのは怖い。すぐに申し込んだ。

## 《昔》 夏の思ひ出

原田敦史

学生時代に夏休みをどのように過ごしたかを振り返って何か書くようにとのことなのだが、書くべきことがまるで思い浮かばない。

世間一般の大学生の夏休みと、それを配給。それから牛のおっぱいをきれいに拭き、ミルクと呼ばれる搾乳機を装着。搾り終えたら、牧草地まで誘導して、放牧。

午後、冬に向けて牧草の刈取りと積み上げの作業。夕方になると、牛たちを牛舎に呼び戻し、エサやりをして終了。

これを30日間、雨が降っても毎日ひたすら繰り返した。それなりの休憩時間はあったのに、本は一冊も読もうと思わなかった。新聞やテレビもあったが、記憶がない。何も考えることなく、ただひたすら肉体的労働に徹した。

とくに事件らしい事件もなかったが、それで、つまらないとか退屈とか、一度も思わなかった。牛たちのために、日々しなければならぬことがある、それだけで一杯だった。やがて最初はつれなかつた？牛たちの表情や癖も分かるようになっていった。

最終日の前夜。いつものように「ペーペー」と声を掛けながら牛を追い込んでいたら、なぜか一頭が群れを離れてしまった。追えば逃げるの繰り返し。最後はトラックで連れ戻してもらい、一件落着。それがフィナーレとなった。

その後、訪ねる機会もないまま、半世紀近く経った。当の酪農家は廃業してしまつたから、もはやあの場所には何の面影も残っていないだろう。それでも、僕の中ではその夏休みの30日間だけが、人生の特別な「コマ」として、今もくつきりと浮かんでくる。

「援農、ユーノー？ 半沢幹一」

## 父島と卒論と 向後理恵子

教授・日本語日本文学

小笠原の父島で過ごした日々は、夏休みの忘れ得ぬ思い出です。初めて小笠原を訪ねたのは、大

学二年の春休みでした。東京から千km離れた南の島はとても静かで、娯楽と言えるようなものもなかったのですが、私はたつた三日の滞在で、透き通る海に囲まれた小笠原の虜になったのです。また、この時間いた「欧米系島民」について興味を持ちました。

大学三年になり、私は小笠原歐

米系島民の言語文化に興味深いので、彼らの言語生活を卒論のテーマにできないかと相談したところ、先生は「おもしろそうじゃないの」と研究を後押ししてくださいました。これで、私には再び小笠原を訪ねなければならぬ理由ができました。

親を説得し、夏休みの初日から

二ヶ月間、小笠原で過ごすことに決めました。しかし、二ヶ月もの滞在費用は調達できません。春に宿泊したユースホステルに電話すると、「それなら、住み込みで働けばいいよ。食事は二食付けるし、二ヶ月間働いてくれるなら、帰りの船代も出すよ。」とのこと。バイト代はほとんどなかったけれど、

先生の著作を目にするたびに思い出します。

「考古学」の友部先生。背がすらつと高く、銀髪で、いつもとても趣味のいいスーツを着ていらつしやいました。ロシア人の血が混じっているという噂を聞いたこともあり、講義を聴くというより、友部先生をうっとり眺めているうちに時間が過ぎました。

### 味噌汁は朝のブルース

R.N



先生の著作を目にするたびに思い出します。

「考古学」の友部先生。背がすらつと高く、銀髪で、いつもとても趣味のいいスーツを着ていらつしやいました。ロシア人の血が混じっているという噂を聞いたこともあり、講義を聴くというより、友部先生をうっとり眺めているうちに時間が過ぎました。

「一般教養の『経済学』。単位を落とすと翌年も高尾に通わなければならないという時代です。長野から上京したばかりで送りも人よりずっと少なかつた私にとつて、当時の共立はあまりにもキラキラとまぶしく、実をいうと居場所

はべつところに見つけました。

大学にはギリギリ卒業できなくらいしか行っていません。通いがどれほど「経済的」でな

が、それでも好きだつた授業。いかをびつり書いた答案用紙を提出し、単位をもらえたばかりかBだつたのがうれしかった。

も三号館ロビーのイメージとともによく思い出します。せつ

かくの機会をいただいたのでいくつか書きとめておきます。

■第二外国語の「フランス語」。提出した「私に見えている色

は他人にも同じ色に見えているのか。実は違つて見えている

順番がくると友だちにカタカとを知らずに同じ名前を呼んで

ナをふつてもらつて乗り切つ

たこと、評価が(たぶん全員)問を授業で取り上げていただき

Aだつたことを、書店で鹿島

ました。今でも同じようなこと

ればならなくなる状況で、テストにノー勉で臨みました。高尾

応募しようとして書き上げた小説を「自宅に送りつけ、翌日」どうでしたか？」と電話したことは思い出すと冷や汗が出ます。

このエッセイを書くことについては、先生からのお話だったせいで必要以上にハードルが高かつたことをお伝えして終わりにします。

いろいろ書いているうちに、共立は楽しかつたなと思ひました。

(一九八八年卒業。フリーライター・校正者)







# コースから

## 日本語日本文学

日文研究室にはシクラメンの鉢植えがあります。二年ほど前に、半沢先生が買ってきてくださったものだと思います。

一般的にシクラメンは冬から春頃にかけて開花しますが、どうやら研究室のものは耐暑性が高いらしく、五月になっても赤い花を咲かせています。また、低い気温を好むため夏越しも難しいのですが、かなり根性があり、真夏でも新葉を伸ばしています。暑さに負けないで育つさまは見ていて、健やかに育つさまは見ていて嬉しく、水やりから施肥にまで、世話をする側としてつい熱が入ってしまいます。

ところで、「花開く」「実を結ぶ」というように、大学の学修は往々にして花実に喩えられます。恐らく皆さんは今、その生長過程にいます。

漢詩に「花発けば風雨多し」という句がありますが、皆さんがあらゆる妨げに負けず、卒業論文という実を結ぶことを祈っています。

## 英語英米文学

もし、授業等に関して何か悩みごとがありましたら、どうぞ研究室まで相談に来てください。日文の助手兩名とも、皆さんの結実をお手伝いできることを願っています。

(助手・川崎)

## フランス語フランス文学

もし、授業等に関して何か悩みごとがありましたら、どうぞ研究室まで相談に来てください。英文の助手兩名とも、皆さんの結実をお手伝いできることを願っています。

(助手・井野元)

## 劇芸術

一生の宝だと私は思います。皆様もそんな素敵な出会いを大切に、充実した学生生活を楽しんでください。

(助手・青柳)

## 造形芸術

今年度の夏は、ミケランジェロ(国立西洋美術館)『ミケランジェロと理想の身体』6月19日〜9月24日(ヤマネ)『横浜美術館』『モネ』『モネ』を始め、見逃せない展覧会が盛り沢山です。

夏季休業中にはインターンや旅行、資格取得などの計画を立てている人も多くでしょう。学業に遊びに就活に、充実した一夏を過ごしてください。と言いつつも、何事も予定をしないゆったり流れる時間の中で集中して本を読む、制作をするという過ごし方も、なかなか捨て難いように思います。

(専任講師・渡部)

## 文芸教養

「ただ」より高いものはないそうですが、乗るべき「ただ」に乗らねば大損、文字通り「ただ」より高いものはなくなってしまう。さ、キャンパスガイドを開いて

## 文芸メディア

「ただ」より高いものはないそうですが、乗るべき「ただ」に乗らねば大損、文字通り「ただ」より高いものはなくなってしまう。さ、キャンパスガイドを開いて

## 文芸学研究科から

文芸学研究科には、四つの領域があります。すなわち、日本文学領域・英文学領域・演劇学領域、になります。現在も、文芸学領域で、フランス文学や歴史を研究している人が複数います。

また、学部で国語または英語の中学・高校の教員免許を取得した場合、修士課程修了時には専修免許を取得することもできます。

専用の自習室も用意されています。修士論文を執筆する際には、複数の専任教員が指導にあたります。

(教授・鈴木)

## 文芸学部長から

鑑賞・批評・創作。一九五三年に文芸学部が設立された際、教育理念とされた三つの柱です。

出版、放送、教育など、文学と芸術に関する情報の送受信を担い、文化創造の原動力となる人材育成を目指したのが、文芸学部の出発点です。

以来、六五年を超える歴史の中で、時代の要請に応じて開講科目やコース編成を変化させながらも、常にこの教育理念を指針としてきました。

現在の文芸学部では、七つのコース、六〇を超える専門科目を通じて、多彩な学びの機会が提供されています。

(教授・山本)

## 専門科目運営委員会から

この委員会の担当領域は、基礎ゼミ・文芸ゼミ、卒論・卒制ゼミ等多岐に渡りますが、毎年感慨深いのは、秋、三年生の卒業論文発表の時期です。自分のコースの学生の分には全て目を通し、どの先生の指導を受けるのが適当かを考えながら分配していきます。

これが、教員が皆さんの「素の」関心を知る最初の機会かもしれません。授業は大学が一定の方針に沿って用意しますが、卒論のテーマは皆さん自身にしか見つけることができず、その中で無作為に出たテーマと接することになります。

(教授・村井)

## 司書課程から

今年度の夏は、ミケランジェロ(国立西洋美術館)『ミケランジェロと理想の身体』6月19日〜9月24日(ヤマネ)『横浜美術館』『モネ』『モネ』を始め、見逃せない展覧会が盛り沢山です。

夏季休業中にはインターンや旅行、資格取得などの計画を立てている人も多くでしょう。学業に遊びに就活に、充実した一夏を過ごしてください。と言いつつも、何事も予定をしないゆったり流れる時間の中で集中して本を読む、制作をするという過ごし方も、なかなか捨て難いように思います。

(専任講師・渡部)

## 文芸学研究科から

文芸学研究科には、四つの領域があります。すなわち、日本文学領域・英文学領域・演劇学領域、になります。現在も、文芸学領域で、フランス文学や歴史を研究している人が複数います。

また、学部で国語または英語の中学・高校の教員免許を取得した場合、修士課程修了時には専修免許を取得することもできます。

専用の自習室も用意されています。修士論文を執筆する際には、複数の専任教員が指導にあたります。

(教授・鈴木)